

●論文

東アジアにおける宗教意識と伝統的な価値観

——国際比較調査のデータ分析

真鍋一史

目次

- I. 問題の所在
- II. データ分析の目的と方法
- III. 質問項目のワーディングと変数の指標化
- IV. データ分析の結果
- V. 今後の課題

キーワード

東アジア (East Asia)
宗教意識 (religious consciousness)
伝統的な価値観 (traditional values)
国際比較調査 (cross-national comparative survey)
データ分析: 2次分析 (data analysis: secondary analysis)
ステップワイズ分析法 (stepwise method)

Religious Consciousness and Traditional Values in East Asia
by KAZUFUMI MANABE

I. 問題の所在

現代の社会科学にとって、最も大きな出来事の1つをあげるとするならば、それは質問紙法 (questionnaire method) にもとづく、多数の国ぐにを対象とする、大規模な国際比較調査 (large-scale multi-national comparative surveys) の出現ということであろう。これらの国際比較調査は、①欧米発の調査と、②東アジア発の調査、に分けられる。例えば、前者には「世界価値観調査 (WVS)」 「国際社会調査プログラム (ISSP)」などが、そして後者には「アジア・バロメーター (AB)」 「アジア・バロメーター (AnB)」 「東アジア価値観国際比較調査 (EAVS)」などがある。

ここで特筆すべきは、これらの国際比較調査では、多くの場合、「宗教意識と価値観」に関する質問項目が取りあげられてきたということである。

そして、①に分類した国際比較調査のデータ分析をとおして、欧米においては、「宗教意識」と「価値観」が深く結びついているということが検証されてきた。

他方、東アジアにおいても、これまでの先行研究では、「宗教意識」と「価値観」は強く絡み合っており、両者を切り離すことはできないという考え方が一般的であった。そして、そのような通説を裏づける文献学的な資料や社会調査にもとづく質的データが提示されてきた。ところが、それにもかかわらず、そのような通説を、上述のような国際比較調査のデータ分析をとおして体系的に検証するという試みは、いまだ十分になされていない。

本稿は、筆者による、そのようなデータ分析の試みの1つについて、具体的な「方法」と、その「結果」、そして「残された課題」に分けて、簡潔に報告するものである。

Ⅱ. データ分析の目的と方法

1. データ分析の目的

データ分析の目的は、東アジアの国々にを対象に実施されてきた大規模な国際比較調査のデータ・セットを用いて、人びとの「宗教意識」と「伝統的な価値観」との関係を分析することにある。この目的をめぐって、ここでは、以下の点について記しておきたい。

(1)このようなデータ分析は、一般に、「2次分析 (secondary analysis)」と呼ばれる。2次分析という手法が、社会科学の領域において、確立した地位を獲得するに到った経緯については、真鍋一史「社会科学はデータ・アーカイブに何を求めているか」『社会と調査』(社会調査協会)、有斐閣、2012年、を参照されたい。

(2)2次分析のために利用するデータ・セットは、

- ①アジア・バロメーター (AB) : 2003
- ②アジア・バロメーター (AnB) : 2001-2003
- ③東アジア価値観国際比較調査 (EAVS) : 2002-2004
- ④世界価値観調査 (WVS) : 2000-2002
- ⑤国際社会調査プログラム (ISSP) : 1998

の5つである。なお、これらの国際比較調査の概要については、湊邦生「東アジアにおける国際比較社会調査とその課題——世界価値観調査、ISSP、アジア・バロメーター、アジア・バロメーター、東アジア価値観国際比較調査から EASS へ——」『日本版 General Social Surveys 研究論文集 [6、7]、JGSS でみた日本人の意識と行動、JGSS Research Series No.3、4』2007年、2008年を参照されたい。

(3)これらのデータ・セットを用いて、比較の視座からするデータ分析に取りあげたのは、日本、中国、韓国、台湾、シンガポール／北京、上海、香港、昆

明、杭州の国／地域／都市である。

2. データ分析の方法

(1) 質問諸項目

データ分析では、以下の質問諸項目を取りあげた。これらは、ここでのデータ分析の問題関心という「サーチライトの光によって照らし出された」(高根正昭『創造の方法学』講談社、1979年、p.60) 国際比較調査の質問諸項目といえることができる。

i) デノミネーション・所属・信仰 (religious denomination・belonging・faith) の諸項目

ii) 宗教的実践・参加・行動 (religious practice・participation・behavior) の諸項目

iii) 宗教意識に関する i) ii) 以外の諸項目

① 宗教的信念 (religious beliefs)

② 宗教の重要性 (importance of religion)

③ 宗教心・信仰心 (religiosity)

iv) ソシオ・デモグラフィック諸項目

① 世代 (generation)

② 教育程度 (level of education)

v) 伝統的な価値観の諸項目

① 名声 (fame)

② 人間関係 (relatedness)

③ 保守意識 (preservation)

④ 調和 (harmony)

⑤ 男女の役割 (gender role)

⑥ 先祖を敬う (respect ancestors)

⑦ 孝行 (piety)

[いうまでもなく、以上の諸項目のうち、i) ii) iii) が「宗教意識」に関する諸

項目である。]

(2) データ分析の技法

ここでのデータ分析の目的に合わせて、「ステップワイズ分析法 (stepwise method) を用いて分析を進める。この技法については、一般に、「重回帰分析 (multiple regression analysis) において、たくさんの説明変数を投入するときに、最終的に用いる説明変数をしぼりこむための一つの方法」と説明される (盛山和夫「ステップワイズ分析法」『新社会学辞典』有斐閣、1993年、p.816)。

(3) データ分析の手順

では、以上にあげた「諸変数 (質問諸項目)」を用いて、どのように「ステップワイズ」のデータ分析を進めていくかが、つぎの課題となる。ここでは、つぎのような順番で分析を進めていくことにする。すなわち、①「デノミネーション・所属・信仰」に対する諸変数群 (「宗教意識の諸変数」「ソシオ・デモグラフィック諸変数」「国／都市の諸変数」) の説明力の検討、②「宗教的实践・参加・活動」に対する諸変数群 (「宗教意識の諸変数」「ソシオ・デモグラフィック諸変数」「国／都市の諸変数」) の説明力の検討、③「伝統的な価値観」に対する諸変数群 (「宗教意識の諸変数」「ソシオ・デモグラフィック諸変数」「国／都市の諸変数」) の説明力の検討、④「デノミネーション・所属・信仰」に対する「伝統的な価値観」の説明力の検討、⑤「宗教的实践・参加・活動」に対する「伝統的な価値観」の説明力の検討、を行なう。ここでは、このような「説明力」の検討を「決定係数 (coefficient of determination: R^2)」を用いて行なう。決定係数は相関係数の2乗に一致し、0～1 (0%～100%) の値を取り、独立変数で従属変数の値がどれだけ説明できるかという、その割合を表す (岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎』有斐閣、2007年、p.214)。決定係数の値は、大きいほどよいが、一般に0.1以上あれば十分であり、0.05以下であれば独立変数を替えるなどの工夫が必要となるとされている (金井雅之ほか『社会調査の応用』弘文堂、2012年、p.214)。

Ⅲ. 質問項目のワーディングと変数の指標化

以上のような「ステップワイズ分析法」によるデータ分析を進めるのに先立って、利用する諸変数（質問諸項目）のワーディングとその指標化について確認しておかなければならない。ここでは、「データ分析の方法」のところで取りあげた「質問諸項目」の順に、5つのデータ・セット—— AB、AnB、EAVS、WVS、ISSP ——ごとに、それぞれのワーディングを提示するとともに、「因子分析（factor analysis）」などにもとづく諸変数の指標化（集約化）の方向について記しておきたい。

(1) デノミネーション・所属・信仰

AB: "Do you regard yourself as belonging to any particular religion?"

AnB: "What is your religion?"

EAVS: "Do you have any personal religious faith?"

WVS: "Do you belong to a religious denomination?"

ISSP: "Do you have a religious faith?"

これらのワーディングについては、いわゆる「測定の等価性の問題（the issue of measurement equivalence）」が提起されることになる。具体的にいうならば、これらのワーディングは、①被調査者の宗教・宗派・教団への名目上の所属を尋ねるもの（AnB、WVS）、②被調査者の宗教・宗派・教団への主観的・自覚的・意志的な所属を尋ねるもの、(AB)、③被調査者の信仰の有無を尋ねるもの（EAVS、ISSP）、に分けられるということであり、これら3つの側面は必ずしも一致するものではないということである。しかし、この点については、ここでは、このような問題の所在を指摘するにとどめる。いずれにしても、ここでは「デノミネーション・所属・信仰」の変数を、“positive response”と“negative response”という2値変数（dummy variable）として扱う。

(2)宗教的实践・参加・行動

AB: "Apart from weddings, funerals and such ceremonies, about how often do you attend religious services or visit a place of worship these days?"

AnB: "About how often do you practice religious services or rituals these days?"

(中国では質問されていない)

EAVS: 該当する質問項目はない。

WVS: "Apart from weddings, funerals, christenings, about how often do you attend religious services these days?"

ISSP: "How often do you attend religious services or go to pray at temple/shrine other than 'Hatsumode', wedding or funeral?"

(日本のみ)

ここでも、これらのワーディングについては、「等価性の問題」が提起される。それは、①「宗教的实践・参加・行動」を具体的な表現が"attend"であるか (AB、WVS、ISSP)、それとも"practice"であるか、(AnB)、という違いと、②「宗教的实践・参加・行動」に「結婚式、葬式、洗礼式、初詣などの宗教的な儀式」を含めるか (AnB)、それともを含めないか (AB、WVS、ISSP)、という違いである。いずれにしても、この変数は、"low involvement" から "high involvement" にいたる「スケール (scale)」という形で指標化される。

(3)宗教的な信念

AB: 該当する質問項目はない。

AnB: 該当する質問項目はない。

EAVS: the belief in God or Buddha, the other world, the soul, the devil, hell, heaven or paradise, sin.

WVS: 日本とシンガポール以外では質問されていない。

ISSP: closest to Rs belief about God,

the belief in life after death, heaven, hell.

ここで、EAVS の場合も、ISSP の場合も、「因子分析」の結果、固有値 (Eigen value) は 5.49 と 2.73 で、それぞれ 1 因子が抽出された。こうして、「宗教的な信念」は、“low beliefs” から “high beliefs” へという「スケール」の形で指標化される。

(4)宗教の重要性

AB: “Which of the following social circles or groups are important to you?” (religion)

AnB: “Please tell me the three most important organizations or formal groups you belong to.” (religious groups) (中国を除く)

EAVS: “By using the scale of 1 to 7, can you tell me how important religion is to you?”

WVS: “For each of the following, indicate how important it is in your life.” (religion)

ISSP: “To me, life is meaningful only because God exists.”

これらの諸変数は、“not at all important” から “very important” までの「スケール」の形で指標化される。

(5)宗教心・信仰心

AB: “Of the following lifestyle aspects or life circumstances, please select five that are important to you.” (being devout)

AnB: 該当する質問項目はない

EAVS: “Without reference to any of established religions, do you think a religious mind (‘religious heart’ in Japan) is important or not important.”

WVS: “Independently of whether you go to church/temple/shrine or not, would you say you are a religious person?”

ISSP: “Do you describe yourself as religious?”

これらの諸変数は、"low religiosity" から "high religiosity" へという「スケール」の形で指標化される。

(6) ソシオ・デモグラフィック変数

ソシオ・デモグラフィック変数は以下のように指標化した。

i) 世代 (generation: cohort)

① 1945 年以前に生まれたコーホート

[第二次世界大戦と、戦後の復興、という重大な出来事を青年期または人格形成期に経験したコーホート]

② 1945 年～ 1969 年に生まれたコーホート

[社会変動と文化変容と経済成長の始まりを経験したコーホート]

③ 1970 年以降に生まれたコーホート

[社会の安定と経済の豊かさの広がりを経験したコーホート]

ii) 教育程度

① 低レベル

② 中レベル

③ 高レベル

(7) 東アジアの伝統的な価値観

AB: Question items refer to desired accomplishments of (if necessary, imagined) sons and daughters

選択肢は、その「内容」から、2つの種類に分けられる。

i) 名声

- ・ a great scholar
- ・ a powerful political leader
- ・ a wealthy person
- ・ a person respected by the masses

ii) 人間関係

- ・ a loving and charitable person
- ・ a person who cares about family
- ・ find a good marriage partner

息子の場合も、娘の場合も、「因子分析」によって特定の因子を抽出することはできなかった。そこで、上の選択肢の「内容」にもとづいて、2種類の「合計得点 (sum of scores)」が算出された。

AnB: 一連の質問項目から、「因子分析」によって、2つの因子が抽出された。

i) 第1因子：保守意識

"A man will loose face if he works under a female supervisor."

"Wealth and poverty, success and failure are all determined by fate."

"When hiring someone, even if a stranger is more qualified, the opportunity should still be given to relatives and friends."

ii) 第2因子：調和

"For the sake of the family, the individual should put his personal interest second."

"A person should not insist on his own opinion, if his co-workers disagree with him."

"When on has a conflict with a neighbor, the best way to deal with it is to accommodate to the other person."

第1因子の固有値は、1.984、第2因子のそれは1.238となった。

EAVS: ここでも、それらの質問項目から2つの因子が抽出された。

i) 第1因子：男女の役割

"We need a son to keep our family line going."

"A wife should follow her husband."

"Men should work outside and women should tend to housekeeping."

ii) 第2因子：先祖を敬う

"We should respect ancestors."

"The eldest son should look after his aging parents."

第1因子の固有値は、2.740、第2因子のそれは1.141となった。

WVS: 二つの因子が抽出された。

i) 男女の役割

"A working mother can establish just as warm and secure relationship with her children as a mother who does not work."

"Being a housewife is just as fulfilling as working for pay."

"Both the husband and wife should contribute to household income."

ii) 孝行

"One of my main goals in life has been to make my parents proud."

"A woman has to have children in order to be fulfilled."

"Regardless of what the qualities and faults of one's parents are, one must always love and respect them."

第1因子の固有値は1.486、第2因子のそれは1.200となった。

ISSP: 伝統的な価値観に関する質問項目が少なく、つぎの「男女の役割」についての2項目にかざられる。

"A husband's job is to earn money; a wife's job is to look after the home and

family.”

“All in all, family life suffers when a woman has a full-time job.”

これら2項目間の相関関係はかなり大きいもの ($r = 0.505$) となった。こうして、「男女の役割」に関する「スケール (近代的→伝統的)」が構成された。

Ⅳ. データ分析の結果

1. 諸変数ごとの度数分布表 (単純集計表) の検討結果

ここで分析に取りあげた諸変数 (質問諸項目) ごとの、各国／都市別の、単純集計表からの結果の読み取りを、一覧表の形でまとめたのが表1である。

表1 各国／都市ごとの「宗教意識」と「伝統的な価値観」の傾向 (％の値)

		低	中	高
宗教意識	デノミネーション	中国		香港・台湾・シンガポール
	宗教的实践	中国	台湾・日本	韓国・シンガポール
	宗教的な信念	中国・北京・杭州	日本	シンガポール・韓国・台湾
	宗教の重要性	中国・北京	日本・香港	シンガポール・韓国・台湾
	宗教心・信仰心	中国・北京		シンガポール・韓国・台湾
伝統的な価値観	名声	日本・中国	韓国	
	人間関係	中国	韓国	日本
	保守意識	日本・台湾	韓国	中国・香港
	調和	香港	韓国・台湾	日本・中国
	先祖を敬う	日本・韓国	シンガポール・北京・昆明	香港・台湾・上海・杭州
	孝行	日本・中国		韓国・シンガポール

この表1からするならば、まず、「宗教意識」に関しては、どの「宗教意識」の側面 (指標) についても、シンガポール、韓国、台湾の回答のパーセン

トが高く、中国のそれが低く、日本は両者の中間に位置づけられることがわかる。つぎに、「伝統的な価値観」に関しては、それぞれの「価値観」の項目ごとにやや異なる傾向が見られる。たとえば、日本は、「名声」「保守意識」「先祖を敬う」「孝行」では低い位置にとどまるが、「人間関係」「調和」では高い位置にあることがわかる。中国は、「名声」「人間関係」「孝行」では低く、「保守意識」「調和」では高い。韓国は、「名声」「人間関係」「保守意識」「調和」では中位であるが、「先祖を敬う」では低位、「孝行」では高位にある。こうして見てくると、ここにあげた「価値観」の諸項目は、確かに、文献研究からするならば、それらは「東アジア的な価値観」といわれてきたものに違いないが、しかし、それが現在でもそのままであるかという、必ずしもそうはいえない——もちろん、日本で見られる、「人間関係」や「調和」を高く評価するという傾向は、いわゆる「伝統的な価値観」が現在でも、相変わらず人びとに保持され続けていることを示しているにしても——という、現代における東アジアの人びとの価値観のリアリティが明確に示されているといわなければならない。

2. ステップワイズ分析法による分析結果

ここでは、ステップごとの分析の設定の仕方と、分析の結果から読み取ることのできる諸知見を箇条書きの形で記していきたい。

(1) 「デノミネーション・所属・信仰」を被説明変数に設定した分析 (表2)

<知見>

- ・決定係数は EAVS、WVS、ISSP (日本の調査結果のみ) で高く、AB、AnB で低い。
- ・EAVS、WVS、ISSP では、「デノミネーション」に対して「宗教的な信念」「宗教の重要性」「宗教心・信仰心」の影響がかなり大きい、AB、AnB ではそれが小さいことがわかる。
- ・これらの調査で、説明変数に「コーホート」「教育程度」を加えても、決

定係数にほとんど変化はない——決定係数の値は大きくならない——。

・さらに、「国／都市」を加えると、決定係数はやや大きくなる。

表2 デノミネーション・所属・信仰の対する諸変数の説明力 (R^2)

	AB	AnB	EAVS	WVS	ISSP
宗教的な信念 宗教の重要性 宗教心・信仰心	0.12	0.06	0.61	0.50	0.35
宗教的な信念 宗教の重要性 宗教心・信仰心 コーホート 1945 - 1970 コーホート 1970 - 教育程度	0.13	0.09	0.62	0.53	0.40
宗教的な信念 宗教の重要性 宗教心・信仰心 コーホート 1945 - 1970 コーホート 1970 - 教育程度 日本 中国 北京 上海 香港 昆明 杭州 シンガポール 韓国 台湾	0.34	0.23	0.66	0.61	

(2) 「宗教的实践・参加・行動」を被説明変数に設定した分析 (表3)

<知見>

- ・決定係数は WVS、ISSP で高く、AB、AnB で低い。
- ・WVS、ISSP では、「宗教的实践」に対して「宗教的な信念」「宗教の重要性」「宗教心・信仰心」の影響がやや大きい、AB、AnB ではそれが小さいことがわかる。
- ・これらの調査で、説明変数に「コーホート」「教育程度」を加えても、決

定係数にほとんど変化はない。

・さらに、「国／都市」を加えると、決定係数はやや大きくなる。

表3 宗教的实践・参加・行動に対する諸変数の説明力 (R²)

	AB	AnB	EAVS	WVS	ISSP
宗教的な信念 宗教の重要性 宗教心・信仰心	0.19	0.02		0.39	0.33
宗教的な信念 宗教の重要性 宗教心・信仰心 コーホート 1945 - 1970 コーホート 1970 - 教育程度	0.20	0.06		0.42	0.33
宗教的な信念 宗教の重要性 宗教心・信仰心 コーホート 1945 - 1970 コーホート 1970 - 教育程度 日本 中国 北京 上海 香港 昆明 杭州 シンガポール 韓国 台湾	0.35	0.20		0.52	

(3) 「東アジアの伝統的な価値観」を被説明変数に設定した分析 (表4)

<知見>

・いずれの説明変数についても、決定係数の値はきわめて小さい。伝統的な価値観に対する「宗教的な信念」「宗教の重要性」「宗教心・信仰心」の影響は、きわめて小さいか、あるいはまったくないといったレベルのものである。これは、きわめて意外な結果といわなければならない。

表4 「東アジアの伝統的な価値観」に対する諸変数の説明力 (R²)

	AB				AnB		EAVS		WVS		ISSP
	名声 (息子)	名声 (娘)	人間 関係 (息子)	人間 関係 (娘)	保守 意識	調和	男女 の 役割	先祖 を 敬う	男女 の 役割	孝行	男女 の 役割
宗教的な信念											
宗教の重要性											
宗教心・信仰心											
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.07	0.09
宗教的な信念											
宗教の重要性											
宗教心・信仰心											
コーホート											
1945 - 1970											
コーホート											
1970 -											
教育程度											
	0.00	0.01	0.00	0.00	0.06	0.03	0.13	0.01	0.00	0.08	0.13
宗教的な信念											
宗教の重要性											
宗教心・信仰心											
コーホート											
1945 - 1970											
コーホート											
1970 -											
教育程度											
日本											
中国											
北京											
上海											
香港											
昆明											
杭州											
シンガポール											
韓国											
台湾											
	0.10	0.09	0.11	0.02	0.08	0.03	0.22	0.08	0.02	0.20	

(4) 「デノミネーション・所属・信仰」を被説明変数に設定し、「東アジアの伝統的な価値観」を説明変数に加えた分析 (表5)

<知見>

・「伝統的な価値観」の説明力は、きわめて小さいか、あるいはまったくな

いといったレベルのものである。

表5 「デノミネーション・所属・信仰」に対する「伝統的な価値観」の説明力 (R²)

	AB	AnB	EAVS	WVS	ISSP
宗教的な信念					
宗教の重要性					
宗教心・信仰心					
コーホート 1945 - 1970					
コーホート 1970 -					
教育程度					
中国					
北京 上海 香港 昆明 杭州					
シンガポール					
韓国					
台湾	0.34	0.23	0.65	0.65	0.40
宗教的な信念					
宗教の重要性					
宗教心・信仰心					
コーホート 1945 - 1970					
コーホート 1970 -					
教育程度					
中国					
北京 上海 香港 昆明 杭州					
シンガポール					
韓国					
台湾					
名声(息子)					
名声(娘)					
人間関係(息子)					
人間関係(娘)					
保守意識					
調和					
男女の役割					
先祖を敬う					
孝行	0.35	0.24	0.66	0.65	0.40

(5)「宗教的な実践・参加・行動」を被説明変数に設定し、「東アジアの伝統的な価値観」を説明変数に加えた分析 (表 6)

<知見>

・「伝統的な価値観」の説明力は、きわめて小さいか、あるいはまったく無いといったレベルのものである。

表 6「宗教的な実践・参加・行動」に対する「伝統的な価値観」の説明力 (R^2)

	AB	AnB	EAVS	WVS	ISSP
宗教的な信念					
宗教の重要性					
宗教心・信仰心					
コーホート 1945 - 1970					
コーホート 1970 -					
教育程度					
中国					
北京 上海 香港 昆明 杭州					
シンガポール					
韓国					
台湾					
	0.35	0.20		0.56	0.33
宗教的な信念					
宗教の重要性					
宗教心・信仰心					
コーホート 1945 - 1970					
コーホート 1970 -					
教育程度					
中国					
北京 上海 香港 昆明 杭州					
シンガポール					
韓国					
台湾					
名声 (息子)					
名声 (娘)					
人間関係 (息子)					
人間関係 (娘)					
保守意識					
調和					
男女の役割					
先祖を敬う					
孝行					
	0.35	0.21		0.56	0.33

V. 今後の課題

今回の国際比較調査のデータ分析の出発点となった筆者の「問題関心」は、「東アジアにおいても、人びとの『宗教意識と価値観』は深く結びついている」、もう少し踏み込んでいえば、「宗教意識は価値観に大きな影響を与えている」という直感的な認識であった。そのような認識は、単なる筆者の個人的な洞察を越えるものであった。つまり、われわれは、それを裏付ける多くの文献資料をもっている。その1つに、和辻哲郎の論考「お伽噺としての『竹取物語』」(大正11年11月)がある(『日本精神史研究』岩波書店、1992年、pp.145-159)。この論考において、和辻哲郎は、『竹取物語』には仏教思想の影響が認められるとしている。そして、それは、現世の権力——「帝」や「皇族」や「兵隊」によって象徴される——を超えた超自然界の存在——人間界のものでない「かぐや姫」とその帰っていく「月の世界」によって象徴される——が示唆されている点において明らかであるという。

本稿では、このような「問題関心」から、AB、AnB、EAVS、WVS、ISSPという5種類の大規模な国際比較調査のデータ・セットを取りあげ、これらのデータ・セットを用いて、人びとの「宗教意識」と「価値観」との関係を、ステップワイズ分析法によって分析する試みを行なった。ところが、その結果は、「人びとの宗教意識と価値観との関係はきわめて小さい」という知見の導出に終わった。これまでの通説からするならば、この結果は、きわめて意外なものであるといわなければならない。

では、なぜこのような分析結果が導かれることになったのであろうか。まず考えられることは、すでに「度数分布表」の検討結果のところで記したように、今回のデータ分析において、「東アジアにおける伝統的な価値観」という名称で取りあげた「人びとのものの見方・考え方・感じ方」に関する質問諸項目の内容が、必ずしも東アジアの人びとによって共有される価値観とはいえないくなっているという「事実」である。この「事実」が、データの分析の結果に

影響を与えるであろうことは、想像に難くない。

つぎに、「宗教意識」に関する質問諸項目についても、ワーディングの検討をとおして、いわゆる「等価性の問題」の所在を指摘した。これらの問題点がデータ分析の結果に影響を及ぼした可能性は否定できない。

さらに、それぞれの変数の指標化についても、そのそれぞれの再検討をとおして、より有効な操作化の方向が示唆されるかもしれない。

こうして、これら3点を含めて、変数間の関係の測定（measurement）に関する方法論的な再検討が、今後に残されたきわめて重要な課題といえるのである。

〈付記〉

本稿は、オランダ・ティルブルグ大学のヘンク・ヴィンケン博士との共同研究を踏まえたものであるが、論文の構成、問題関心をめぐる議論、分析結果の解釈、今後の研究の展望などは、すべて筆者のオリジナリティにもとづいて書かれたものである。

Religious Consciousness and Traditional Values in East Asia:

A Data Analysis of Multi-National Comparative Surveys

by KAZUFUMI MANABE

One of the most significant developments in contemporary social sciences is the implementation of large-scale multi-national comparative surveys using questionnaire methods.

The datasets of these kinds of multi-national surveys analyzed in this paper are as follows:

1. The AsiaBarometer (2003)
2. The Asian Barometer (2001-2003)
3. The East Asia Values Survey (2002-2004)
4. The World Values Survey (2000-2002)
5. The International Social Survey Programme (1998)

The purpose of data analysis (secondary analysis) in this paper is to examine the relationships between people's religious consciousness and traditional values. The stepwise method of multi-regression analysis is used for this purpose.

The results of the analyses show that the explanatory power of traditional values in East Asia is weak, which is surprising considering the proposition widely accepted by scholars of qualitative methods that religious consciousness and general traditional values are strongly related.

Further examinations in the wording of each variable, the method of operationalization of each indicator, and the measurement of the relationships between variables are needed.